

180の城跡を現地調査 その全容と魅力を語る

甲賀市史3冊目となる第7巻「甲賀の城」の刊行を記念したシンポジウム「大築城時代と甲賀」が11月27日、忍の里プラザで開催されました。

甲賀市の歴史を語る上で、見逃すことができない城。戦国時代の約100年間に200余りの城が築かれました。第7巻は、5年をかけて現地調査した市域に残る180の城郭遺構を紹介、探訪のガイドもついています。城跡だけで市史の1冊が出されるのは全国的にも珍しいことです。

講演会では、長浜城歴史博物館の中井均館長ら4人の城郭研究者が、甲賀の城の魅力を語り、会場を埋めた歴史愛好者が、資料を見ながら熱心に聞き入っていました。

市史刊行記念シンポジウム



▲城郭研究の成果や城の魅力が語られたシンポジウム

澄み切った冬空 100発の花火が彩る

忍者の里甲南「冬の花火」



▲甲南パーキングエリアから見る冬の花火

忍者の里甲南「冬の花火」が12月23日、甲南町杉谷の甲南第二小学校付近で打ち上げられました。

甲賀市観光協会が忍者の里をPRしようと毎年開催しているもので、スターマインなど約100発が冬空を彩り、まちを照らしました。

新名神高速道路甲南パーキングエリアからは見晴らしが抜群とあって、芝生広場などには多くの見物客が集まりました。今年は例年以上の人数があり、夏とは一味違うこの季節の花火も冬の風物詩として定着しつつあるようです。

こねて、のばして、切って

本格的なそば打ちを体験

「甲賀★忍者隊」一日体験会

甲賀創健館で12月18日、そば打ち体験が行われ、小学生12名が参加しました。

かぶか生涯学習館で年間を通して活動を行う「甲賀★忍者隊」の一日体験会として行われたもので、甲賀町の一宮守さんの手ほどきを受けながら、そば粉をこねて、めん棒でのばして、包丁で切るという一連の工程に挑戦しました。

一宮さんから「生地が乾燥するので手早く」とアドバイスを受けながら、一つひとつ作業を進めた子どもたち。「包丁で細く切るのが難しかった。太いのもあるけどおいしい」と、ゆで上がったそばを笑顔でほおばっていました。



▲大きなそば切り包丁で力を込めて生地を切る小学生

新年の主役「ウサギ」の 置物を親子で手作り

みなくち子どもの森「森の教室」

みなくち子どもの森で12月26日、干支の置物づくりが行われました。

子どもの森で行われている冬休み特別行事「森の教室」のひとつで、25名の親子が参加。ウサギの足跡に関するクイズで新年の干支「ウサギ」に親しんだ後、紙粘土でかわいらしいウサギを作りました。

白いウサギのほか、マジックでピンクや黄色などに着色したカラフルなウサギや、鼻に、トウモロコシの実やアサガオの種など自然の素材を使ったウサギなど、個性的な作品が出来上がりました。これらのウサギたちは各家庭のお正月を彩ったことでしょう。



▲出来上がったウサギの置物「どこに飾ろうかな」

1本のヒノキから ハンガーツリーを制作

間伐材を使った木工教室が12月18日、土山の森林文化ホールで開催され、10組の小学生親子がハンガーツリー作りに挑戦しました。

地元材に愛着をもってもらい、間伐材の有効活用を図ろうと行われたもので愛林クラブの竹中島真博さんが指導。親子で協力しながら、ヒノキの皮をはぎ、表面をやすりで滑らかにしたり、土台部分をのみで削ったりしました。

最後にポール部分を土台に固定し完成。一日がかりの作業でしたが、ヒノキの香りが漂うハンガーツリーの出来栄に、参加者も満足そうでした。

伴谷保育園児が収穫体験



▲収穫した大根を持ち上げ歓声を上げる園児

「大きな大根とったよ」

伴谷保育園児が12月27日、水口町山にあるNPO法人「鹿深の杜」の農場で大根の収穫体験をしました。

農業をテーマにした環境保護に取り組み同法人が園児を招待したもので、5歳児33名が一人一本ずつ収穫。大根の葉を握り、左右に揺すってゆっくり引き抜くと、長さ40センチもある大物や先端が分かれて変形した大根が姿を現しました。

子どもたちは自分の掘った大根を友だちと見せ合い、大はしゃぎ。食べ方を聞かれると「おでんにしてもらう」「私は切り干し大根」などと元気に答え、家族へのお土産として持ち帰りました。

地域材を活かした木工教室



▶1日ばかりで作ったハンガーツリーを笑顔で見上げる親子

▼のみを使って土台作り

